

パイロット



＜操縦桿を握るためにすることは？＞

航空会社の定期航空便の機長は到着地まで安全に飛行するため、気象データなどから、ディスプレイ（運航管理者）と到着地までの飛行高度、飛行速度、積み込む燃料の量などのフライトプラン（飛行計画）を決定します。

離陸前には、航空整備士から整備の報告を受け、客室乗務員とのブリーフィング（打ち合わせ）を行います。

管制官からの許可を受けて離陸後、自動操縦に切り替えた後も副操縦士と協力しながら、管制官に飛行位置を連絡しながら定時運行に努めます。

パイロットは操縦技術の他にハードな勤務をこなせる体力、冷静な判断力などが求められ、緊急事態にも対応できるよう厳しい訓練を積む必要があります。また、管制官との交信は英語で行われますので、語学力も必要です。

定期航空会社のパイロットになるには、航空大学校から航空会社に採用されるか、大学卒業後航空会社に入社して自社養成パイロットコースで訓練を行い、国家試験に合格する必要があります。

副操縦士から機長に昇格するにはおおよそ10年以上の経験を積み、資格審査に合格したうえで昇格訓練を受けなければなりません。

また、機種によって操縦資格が違うので、今乗務している機種と別の機種の機体に乗務するには、そのための訓練を受け、資格を取る必要があります。

航空整備士



＜短時間で機体をベストの状態に＞

航空機の整備は、飛行場に到着してから次の路線に出発するまでの間に行うもの、一定の飛行時間を超えた際に工場に送り、分解して行うものなどがあります。

このうち、飛行場での整備は、通常、航空整備士2人体制でエンジン・タイヤ・コックピットの電子機器等の点検を行い、最後に一等航空整備士の資格を持つ責任者が最終確認し、飛行機の状態をパイロットに伝えます。この間点検・修理に費やせる時間は30分～1時間ほどで、定時運航のためにスピードが必要なうえ、数ミリ単位のわずかな誤差も機体の不具合につながるため、正確さが問われます。

また、最近の航空機は多くのハイテク技術が導入され、^{ひんぱん}頻繁に機体の改良が行われています。そのため、航空整備士は日々勉強が求められます。

空港に到着した機体を効率よく次の路線に飛ばすため、通常、航空整備士の勤務は24時間の3交替制が取られます。

航空整備士になるには、大学や専門学校等を卒業後、航空会社に入社して「航空整備士」、「航空運航整備士」などの資格を取るか、航空会社に入る前にこれらの資格を取得することが必要です。